

特集

実践！ 生活行為向上 マネジメント

特集にあたって

生活行為向上マネジメントは作業療法のプロセスを示す一つのツールであり、作業療法の標準的なかたちを一般の人に示すためのものである。生活行為向上マネジメントの開発は、一般社団法人日本作業療法士協会が、2008年度（平成20年度）より老人保健健康増進等事業の助成を受けて行った。2012年度（平成24年度）までの5年間をかけて、基本となるツールの開発や、開発したツールをOTが勤務する医療、介護のさまざまな場面で活用し、また他職種との連携のあり方についても検討を行い、一定の効果を示してきた。

本特集は、その5年間の取り組みから、その効果を示すとともに、脳卒中早期、通所介護事業所・老人保健施設、認知症の早期支援における実践事例を紹介する。また、2012年度の研究で行った、介護支援専門員、訪問介護事業所や通所介護事業所の介護職との連携結果から、他職種との連携時に活かされた作業療法の視点や、OTがもつべき視点を示す。加えて、地域における活動ニーズ実態調査結果と、早期予防に資するOTの役割を紹介したい。

本特集を通して、生活行為向上マネジメントについてさらなる理解を深め、多方面にわたって活躍できるOTの専門性を一般の方や他職種に発信いただきたい。（竹内さをり）

生活行為向上マネジメントとは

脳卒中早期からの実践

通所事業所・老人保健施設における実践

認知症の早期支援における実践

生活行為向上マネジメントを活用した他職種との連携例①介護支援専門員

生活行為向上マネジメントを活用した他職種との連携例②訪問介護事業所

生活行為向上マネジメントを活用した他職種との連携例③通所介護で求められるOTのマネジメント

地域における新たな作業療法の展開—生活行為確認表と興味・関心チェックリストを用いた高齢者のニーズ調査

企画
担当

竹内さをり（甲南女子大学、作業療法士）

野中 猛（日本福祉大学、医師）